モ 2000 米ノ高所デナケレバ出會ハナイノデアル。但シ樺太デハ榮濱ノ海岸ニ産シテ居ル。要スルニ乘鞍岳肩小屋附近ノ高原ハ *Cladonia* ノ豐庫デアツテ且ツ多量ヲ産スルコトハ日本北アルプス連峯中第一ノ場所デアル。

○パルメリア・セントリフーガ吾國ニ産ス（朝比奈泰彥）

從來吾國高山性ノ *Xanthoparmelia* 節ヲ代表シテ居タモノハ *Parmelia incurva* ト *P. diffugiens* (Bot. Mag. Tokyo, Vol. XLI., p. 348, 1927) トデアツタ。此ノ *P. diffugiens* ハ西駒頂上デ採集シタ予ノ送品ヲ基礎トシテ ZAHLBRUCKNER ノ設定シタモノデ、歐州産ノ *P. centrifuga* ニ酷似スルコトハ ZAHLBRUCKNER モ已ニ指摘スル所デ、差異ハ葉體ノ分岐ガ互ニ分離 (discrete) シテ居リ *centrifuga* ノ如ク密接重疊シテ居ラヌ點ト、裏面ハ全ク暗色デ僅ニ周邊ニ於テ淡明デアルコトハ *centrifuga* ノ全裏面ニ亙ツテ白色デアルノト全ク異ルノデアル。反應ハ兩者全ク同一デ Th. K+ 黃色、Med. Ca, −, KC+ 紅色デ顯微化學的操作ニヨリウスニン酸、アトラノリン及アレクトーロン酸ヲ檢出シタ。

おほうばゆりノ巨大莖ト朝比奈先生
(昭和 14 年 9 月 1 日　前川撮ス)

頃日予ハ越中立山産ノ *diffugiens*, 標本ヲ再檢シツヽアリシ時裏面ノ白色ナル共雜品アルヲ認メヨク調ベタ所 *centrifuga* ニ外ナラヌコトヲ知リ更ニ北海道産ノ標本デ無造作ニ *diffugiens* トシテ片附ケテアツタモノヲヨク見ルトトムラウシ岳ノモノハスベテ *centrifuga* デアツタノデ玆ニ *P. centrifuga* ガ吾國ニモ産スルコトヲ決定シタ次第デアル。

○おほうばゆりノ果莖（前川文夫）

コノ寫眞ハ本誌主筆朝比奈泰彥先生デアルコトハ讀者諸兄ノスグ御判リノコトト思フガ、先生ガ右手ニ錫杖ノ樣ニ重サウニ持タレタ丈ノ高イモノハ果實ニナツタおほうばゆり (*Cardiocrinum Glehni* MAKINO) デアル。コレハ本年 7 月 10 日、先生ガ信州上高地カラノ歸途、同地下流ノ澤渡デ一泊サレタ所、旅館ノ床ノ間ニ飾ツテアツタノヲ早速主人ニ交渉、讓リ受ケラレテ、賑物ニ觸ル樣ニシテ御自分デ東京迄持チ歸ヘリ東大理學部植物學敎室ニ寄贈サレタモノデ、ソノ高サヲ示ス爲ニ先生ヲ拜借シテ撮ツタノデアル。先生カラ伺ツタ處デハ、旅館ノ主人某氏ガ本年 2 月ニ上高地ノ某溫泉ノ源泉附近デ積雪ガ

ソコダケ融ケタ中ニによつきりト立ツテ居タノヲ珍ラシイ大キサニ興ヲ牽カレテ採集シテ來タモノノ由デ、寸法ヲ測ツテ見タラ莖ハ果序共ニ 2.1 m 果序ダケデ 0.63 m ニ達シ、莖ノ根元ノ周圍ハ 20 cm 中央迄デ 18.5 cm 果序ノ直下デモ 10 cm ヲ算スル。葉ノ痕ハ 41 個、下方 13-15 個ハ大キクテ尋常葉デアツタト思ハレ、果實ハ 44 個、花時ニハソノ偉容見ルベキモノガアツタニ相違ナイ。サテヒマラヤニ產スル *Cardiocrinum giganteum* MAKINO ハ ELWES ノ百合圖說第 2 圖版 (1880) ニヨレバ莖ノ高サ 6-12 呎、根元ノ周 5-8 吋、又 WILSON ノ東亞ノ百合第 95 頁 (1925) デハ高サ 2-3.5 m 根元ノ徑 5-6 cm モアツテ、太サハ兎モ角モ高サデハ一寸敵ハヌ。シカシおほうばゆりトシテハ、BAKER ハカーチス植物圖譜第 6337 圖版 (1878) ニ、又 ELWER ガ前書ノ第 1 圖版ニ本州低地ノうばゆりト混同シテ記シテ居ル數字ニ莖高 3-5 呎太サ 1 吋トアリ、WILSON モ亦前記著書ニ同ジクうばゆりト一ツニ考ヘテ莖高サ 1-2 m 基部ノ徑 3 cm ト記スカラ、大分ソレヨリハ大キイコトガ判ル。記事ヨリモ目ノアタリノ證據ト思ツテ寫眞ヲ出シタノデアツテ、コノ機會ヲ與ヘラレタ朝比奈先生ニ謝意ヲ表スル。猶ホ蒴果ハ熟シテ裂開シ、種子ノ大部分ハ飛ビ去ツテ居ルガ其ノ長サ翼共ニ 14 mm 許アリ、蒴壁ハ長サ 5 cm 內外デ、外形橢圓形ヲナシテ兩端ハ鈍ニ、基部ニハ長サ 1 cm 許リノ柄部ヲ經テ長サ 1.5-4 cm ノ果梗ニツヾイテ居ル。

○せんだいはぎノ學名（北川政夫）

Acta Horti Petropolitani XXXI (1915) 中ニ發表サレテキル B. A. FEDTSCHENKO 氏ノ 'Матеріаль для Флоры дальняго Востока'（極東地方植物資料）ハ本文ガ露文ノ爲カ餘リ人ニ知ラレテ居ラヌ論文デアル。最近此論文ヲ讀ム機會ヲ得タ私ハ其末尾ニ記述サレテキル植物目錄ニ眼ヲ通シテキタ所 151 頁ニ至ツテ見馴レヌ學名ガ通稱 *Ihermopsis lanceolata* R. BROWN 即チほそばせんだいはぎノ正名トシテ用キラレテキルノニ出遇ヒ不思議ニ思ツテ色々調ベタ結果せんだいはぎノ學名ニ *Thermopsis fabacea* DE CANDOLLE ヲ使フノハヨクナイト云フ事ヲ知ツタ。FEDTCHENKO 氏ガほそばせんだいはぎノ學名トシテ使ツテキルノハ *Thermopsis lupinoides* (L.) LINK デアツテ、コレハ LINNÆUS 氏ノ *Sophora lupinoides* LINNÆUS (Sp. Pl. ed. 1 p. 374 (1753)) ヲ變更シタ名デアル。コレヲ今迄氣付カナカツタトハ甚ダ妙ダト思ヒ早速 LINNÆUS 氏ノ原文ニ照シ合シテ見レベ圖ランヤ記載ハほそばせんだいはぎニ非ズシテせんだいはぎソノモノニ當テ嵌ル。即チ次ノ通リ。

lupinoides. 6. SOPHORA foliis ternatis petiolatis: foliolis ovalibus pilosis.
Sophora foliis ternatis, spica verticillata. *Amoen. acad.* 2 p. 350.
Habitat in Camtschatca. *G. Demidoff.*

之ヲドウシテほそばせんだいはぎノ方ニ當テタカト云フトソレニハ種々ノ經緯ガアリ LINNÆUS 氏ハソレヨリ以前 Amoenitates Academicæ ed. 1 II p. 350 (1751) ニ於テ *Sophora lupinoides* ヲ托葉及ビ花序ノ形狀ヲ基トシテ α, β ノ二形ニ分ケタ。其記載ハ